



Koryo 陵 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077
https://koryo-high-school.com / メール koryo@chibagakuen.ac.jp

高校総体

サッカーベスト8

第79回青森県高等学校総合体育大会サッカー競技、二回戦からの登場となった本校は、十和田工業戦で3年生が得点を決め勝利。続く三回戦弘前中央戦は、0対0の延長戦でも決着がつかずPK戦に突入した。一人目はゴールキーパーの三角寛太さん(2年・江陽中学校出身)がキッカーを務め、冷静にゴールを決めた。その後、自らゴールを守り5対3でPK戦を制し準々決勝へ進んだ。ベスト4をかけた相手は三本木高校。1点を先制された後、早い段階で追いつくも追加点



ならず、ベスト8に終わった。会場は、青森だったが多くの保護者、家族らが駆け付け、選手たちに温かい声援を送ってくれた。

《試合結果》

二回戦 5月31日(日) 向陵 2 - 1 十和田工業
〈得点〉田邊 慧(3年・横浜市立中山中学校出身)
小原 優羽(3年・秦野市立本町中学校出身)
三回戦 6月5日(金) 向陵 0 - 0 弘前中央
PK 5 - 3

- ①三角 寛太(2年・江陽中学校出身)
- ②田邊 慧(3年・横浜市立中山中学校出身)
- ③高山 勝吏(3年・湊中学校出身)
- ④黒野小太郎(2年・亘理町立逢隈中学校出身)
- ⑤頼住 隆汰(3年・厚木市立小船中学校出身)



準々決勝 向陵 1 - 4 三本木
〈得点〉高山 勝吏(3年・湊中学校出身)



朝の挨拶運動

6月(月)から日(木)の4日間、保護者の方々に協力いただき朝の挨拶運動を実施した。駐車場脇で行ったが、生徒の中には、大きな声で挨拶する者、保護者から距離をとり恥ずかしがって小さく会釈をする者がいたが、保護者たちには、生徒の普段の様子を見ていただけた。保護者からは、自転車通学をしている生徒たちの敷地内の速度をご指摘いただき、本校の安全指導に役立てることができた。



バンド・クリニック参加

6月(日)、八戸工業大学第二高等学校において八戸聖ウルスラ学院高等学校、本校の軽音楽部による3校合同バンド・クリニックが行われた。ヤマハミュージックジャパンの森山賢志氏を講師にお迎えし、ドラムの基本テクニックを教わったり、各校のバンド演奏とその講評

をしていただいた。今回初参加となった佐々木凜さん(1年・第二中学校出身)は、「初めは緊張しましたが、講師の方や参加者が盛り上げてくださったのおかげで楽しく活動できました。ドラムをやり始めたばかりなので、他の方のパフォーマンスを見て勉強になりましたし、真似したい技をたくさん得ることができました。ステージ発表に向けて練習を頑張りたいと思います」と感想を述べてくれた。



文芸大会入賞

第 回芭蕉堂まつり文芸大会入賞作品
【令和8年6月(日)表彰式 芭蕉堂公園】

【短歌の部】「光・ひかり」小瀬川 喜井 選
秀逸 高橋 歩(1年・第一中学校出身)
暗き日に 静かに差した一筋の
光のような声を忘れず

秀逸 増田 陸斗(1年・越前市立武生第三中学校出身)
部活の後 腕の汗まで 光ってる
炭酸水が 喉に刺さるぜ

【俳句の部】「夏の雲」郡川 宏一 選
佳作 小山田唯空(1年・下長中学校出身)
よみがえる 家族の記憶 夏の雲

【川柳の部】「カ・パワー」瀧尻 善英 選
天位 内澤いろは(1年・白山台中学校出身)
ふりしぼる 最後のカゴール前

人位 竹内 正剛(1年・常滑市立常滑中学校出身)
力込め 開けたポテチが 宙を舞う

秀作 吉野 生真(1年・白山台中学校出身)
全身に 力をこめて おきる朝

佳作 松原 麻弥(1年・第一中学校出身)
「やったよ」と 笑って見せたカこぶ

佳作 平本 斗磨(1年・下長中学校出身)
母さんの 無言の圧が 最強だ

佳作 樋田 美唯(1年・階上町立階上中学校出身)
辛いとき 私に勇気くれる本

教育実習生来校

6月8日(月)から19日(金)まで八戸学院大学・人間健康学部4年生の長谷川凜(はせがわりん)さんが教育実習を行った。教科は保健体育、ホームルームは2年2組を担当した。長谷川さんは、バスケットボール部に所属していることから、体育の授業でも得意のバスケットボールを扱った。生徒たちは、最初こそ緊張していたが、穏やかに年齢が近い長谷川さんを見ているうちに、休み時間や放課後に談笑する姿やバスケットボールで交流する姿が見られた。



【趣味】ゲーム・音楽鑑賞
【向陵の印象】
向陵の生徒は、個性豊かな生徒が多く、元氣な生徒が多いという印象があります。各学年、各クラスで仲が良く、とても良いと思います。

【向陵生へメッセージ】
二週間ありがとうございました。最初は皆さんと仲良くなれるか不安でしたが、気軽に話しかけてくれて楽しい時間を過ごすことができました。私が高校生の時はコロナ禍で、学校に登校できない日もあり、学校行事は修学旅行だけでした。ですから、たくさんの方の学校行事を経験している皆さんをうらやましく思います。進まず就職する人にとって、学生生活がラストになります。仲間と楽しく過ごし、熱中できる何かを見つけて有意義な学校生活を送ってほしいと思います。短い期間でしたが、皆さんありがとうございました。



Do it Yourself講座

木工コース

1年 川村 明美 (湊中学校出身)

材料、道具運びをし、川村先生から説明を聞き、クラスメイトと二人で作業を行うことになりました。最初は板に印をつけました。続いて板を切る作業をしました。が、

普段扱うことのない道具でしたので、とても手が疲れました。全て切った後はやすりをかけ、釘を打つ仕事に入りました。思ったところに釘を打つことができず、釘が曲がったり、違う場所に穴が開いたり苦戦しました。かなり時間がかかりましたが、他の人と協力して何とか完成させることができました。



3年 宮田 俊輔 (北稜中学校出身)

中学一年生以来、ノコギリなどの刃物を使ったので、怪我をしないか心配でした。ペアを組んだ後輩に心配りしながら作業を進めました。また、材料をどのような形に加工しているか見本品に近づけることができるのか試行錯誤しながら作っていました。上手いかないこともありましたが、完成させることができました。3年生の私にとっては、全ての行事が最後となるため、行事が終わることに若干の寂しさを感じました。一つ一つの行事、学校生活を楽しんで過ごしていきたいです。



そばコース

3年 小泉 一花 (大館中学校出身)

山の楽校で初めてそば作りに挑戦しました。思っている以上に苦戦し講師の方に手伝ってもらいました。そば粉を混ぜる工程、押し練る工程が一番大変でした。切る作業は、程よい太さになるよう切りました。そばを完成させたことが嬉しかったし、味もおいしかったです。午後はそば焼きを作りました。できたてのそばはおいしいです。ほんのり温かくもちもちとしておいしかったです。一枚だけでは物足りなくもう一枚食べたいくらいでした。



ダッチオーブンコース

3年 坂本 響亮 (北稜中学校出身)

ダッチオーブンを使ってみた感想としては、最初はとても重く扱い方が難しそうなお印象でした。しかし、使ってみると、その便利さに驚きました。いつも使っている調理器具との違いは、鍋の厚さです。後で調べてみると蓄熱性が高いという特徴があることがわかりました。また、焼く・煮るなどの調理動作が一台でできることも大きな特徴だと感じます。荷物に限られるアウトドアやキャンプでは、特に必要であり、とても便利だと思えます。



パンピン&ミサンガコース

1年 小野寺 麗 (根城中学校出身)

先にプッシュピンを作りました。プッシュピンは最初に自分の好きな絵のキットを選びました。土台に合わせて絵のシールを貼り、そのシールに沿っていろいろな色のビーズを刺していく作業でした。色分けをしながらビーズを刺していく作業は、とても時間がかかり作業が間に合うか焦りました。次にミサンガ作りをしました。ミサンガは四本の糸を編んでいきました。私は、初めてミサンガ作りをしたので、力加減が分からず、編み方が合っていないで形が崩れてしまいました。しかし、集中して数段編んでいくときれいな形を保つことができるようになりました。ミサンガは色の組み合わせも大事で私は、黄色と水色で編みましたが、とてもきれいにできました。



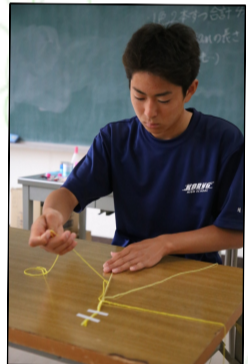
パンを長持ちさせるために大切な作業であることも知りました。今回の体験を通して、ダッチオーブンの特性や手間をかける料理をする楽しさを知ることができました。ダッチオーブンは、少し扱いが難しくても、その特性を生かすことで料理ができる魅力的な調理器具だと思いました。



「身に付けていると自然に切れた時に願いが叶う」というおまじないとして親しまれているミサンガを、気持ちを込めて作りました。作り方をしっかりとマスターして誰かにあげたいと思いました。

1年 小山内 悠 (根城中学校出身)

最初は、仲が良い人が少なく不安でしたが、同じコースの人たちが声をかけてくれました。プッシュピンを刺していく作業は細かくて集中力が要するため、面倒臭そうといった印象でしたが、やってみるときれいにでき自分でも驚きました。午後のミサンガは上手いはず、半ばあきらめていました。



キャンドルクラフトコース

1年 北村 嶺奈 (第三中学校出身)

私は、今回の活動で二つのことを学ぶことができました。一つ目は協力することの大切さです。ロウを使っての活動は思っていたよりも大変でした。ロウをちょうどよい硬さにすることなど、一つ一つの作業が難しかったです。そこで一人でやるのではなく、皆で協力して教え合い、助け合うことで良い作品を作り上げることができました。二つ目は、ロウの自由自在さについてです。キャンドルは、ロウを型に流し込んで冷やし固めるだけだと思っていました。しかし、ロウは私が思っていたより自由自在に動かすことができました。巻いてみたり、形を変えたり、シャーベット状にしたり、氷を入れたり、キャンドルを作る方法はたくさんあり、ロウの種類もたくさんありました。このロウの特性を生かして自分だけのオリジナルキャンドルを考えて作る楽しさがありました。このことから、良いものを作る、良いことをするときは全部を一人でやらず、周りを見て助けること



周りの人が上手に作っているのを観察したり、教えてもらいながら作業を進めました。ミサンガは上手くできませんでしたが、プッシュピンだけでも完成させることができました。良かったです。講座をやる前までは不安でしたが、やってみたら全部の不安がなくなっていました。何事もやってみることは大事だと思いました。



はもちろん助けってもらふことの大切さだと思います。その物の特徴を生かして工夫することで、何か新しいものに出会えるのではないかと考えることができました。今回学んだことを忘れずに生活していきたいです。



フェイクスイーツコース

1年 小山田 唯空 (下長中学校出身)



今回のフェイクスイーツ作りは体験学習の時以来二回目でした。二度目ということもあり、創作意欲がわき、作りたいものがたくさん出てきました。いざやってみると形作るのが難しく何度もやり直しをしました。しかし、友達の手伝いもあり、可愛いものを作ることができました。パフェを完成させると「自分にはこんなことができるんだ」と、とても嬉しい気持ちになりました。午後は写真立てをデコレーションしました。選んだビーズをどう飾り付けするか考えるだけでも楽しかったです。家でも新しい作品を作ってみたいです。

1年 姥名 琉有 (三沢市立三沢第一中学校出身)

最初にパフェの飾りとなるアイスやクッキーなどを色つきの粘土で作りました。私は、自分の好きな色を入れたらいいと思い、ピンク、黒、オレンジのアイスを作りました。次に透明の液体にピンク色の絵の具をかき混ぜて容器に入れた後、飾り付けをしました。飾り付けのクリームは上手く絞れず苦戦しましたが、不器用で他にもいろいろと失敗もありましたが、自分の個性を存分に生かすことができましたし、とても楽しく活動することができました。今回の失敗をどうすれば上手くいくのか工夫しながら次の講座や学校生活に生かしていきたいと思えます。

